

# 卒業生紹介

## Syobu Mayuko 生部 まゆこ

所属：長崎県産業労働部  
(公益財団法人 長崎県  
産業振興財団 派遣)

出身：長崎県

### 2005年3月

お茶の水女子大学 生活科学部  
人間生活学科 生活社会科学講座 卒業

### 2005年4月～2013年12月

金融業に従事

### 2014年4月

長崎県入庁 産業労働部産業振興課に所属

### 2017年4月

公益財団法人 長崎県産業振興財団(派遣)  
企業誘致推進本部に所属

## 「給料半分、豊かさ倍増」金融業から 公務員へ、地元県庁への転職。

32歳になる春、大学時代から13年過ごした東京を離れ、地元へUターン、長崎県庁へ入庁しました。転職は迷いに迷いました。何せお給料は転職前の半分以下!内定受諾前に人事課へ給与交渉に出向き、『条例で決まっています』と言われたときはビックリしましたが、入庁後に『給与交渉した人なんて初めて見た』と逆にビックリされました。そんな私を受け入れてくれた長崎県庁の度量の広さに、とても感謝しています。

給料半分、というだけでなく、仕事で扱うお金の単位も大きく変わりそうで、果たして県の仕事にやりがいがあるのか、そもそも“公務員”が自分に向いているのか、悩みました。最後は『やらなかった後悔より、やった反省』という気持ちで転職、結果、上司や同僚、仕事に恵まれ、本当にやりがいのある、エキサイティングな体験をさせてもらっています。給料は半分になったけれど、人生の豊かさは倍になった、と心から思っています。

## 地方都市『長崎』のリアル

入庁して最初の仕事は、伝統工芸や食品産業の振興、これが良かった。陶磁器の会合に初めて出席した時です。県担当者が『2・3年後のビジョンをお聞かせ頂きたい』と質問した際、産地のおじちゃん顔が真っ赤にして『俺たちは先祖代々400年以上、この仕事をやってきた。50年後、100年後のビジョンならまだしも、2・3年後みたいなくだらない質問をするな!』と一喝したのです。金融という、“1年後”“半年後”“明日”のお金を稼ぐ世界からやってきた私には、カルチャーショック以外



職場の上司・  
同僚たちと

のなにもでもなく、最初は『このおじちゃん、何言ってんだ』と思いましたが、おかげで興味がわいて、どっぷり沼にハマりました。どの地域にも、伝統的につくられたり守られたりしてきた技やモノが必ずあって、その背景にはその土地ならではの風土や人間らしさがあふれている。食品産業も同様で、地域ならではの美味しいものを沢山の人に食べてもらいたい、そうした産地の気持ちを消費地に届けるお手伝いをする仕事を通じて、扱う金額の桁が変わるが、給料が半分になろうが、転職しなければ一生携われなかった『50年後、100年後を描く仕事』『自分のふるさとのためになる仕事』をしているんだと、心底思いました。

そして4年前から、県の外郭団体に派遣となり、企業誘致に勤しんでいます。当初は『また営業やんのかよ』と思ったのですが、これが最高に楽しい。なんせ、売りのものは地元“長崎”そのもの。長崎の“リアル”を企業ごとに切り口を変えてお伝えし、投資してもらい、一緒に長崎を良くしてもらおう。特にこの1～2年、AIやIoT分野の研究開発拠点として、大手企業に相次いで長崎を選んで頂く、その過程に携わらせてもらいました。富士フィルムソフトウエア(株)、京セラコミュニケーションシステム(株)、(株)デンソーウェーブ(株)ゼンリン、まだまだあります。彼らが最先端技術を駆使し、自社技術に更に磨きをかける『研究開発拠点』として長崎を選び、首都圏と同様の条件で人材を採用し、県内教育機関や地元企業との連携を進め、新しいビジネスを長崎で生み出してくださっています。長崎は今、新幹線やIR誘致、MICEやスタジアムを軸とした複合施設の開発など、大型プロジェクトが次々と控えており、まさに100年に一度の大きな変革期を迎えています。そうした重要な節目に、素晴らしい技術や実績を持つ企業が続々と長崎に集まっている。これはきっと、何かのご縁と思っています。

これからの課題は、『地方都市・長崎』のイメージを変えて

いくこと。長崎の新しく正しい『リアル』を発信し、大都市だろうとそうでなかろうと最先端の研究開発ができる、故郷で暮らしながら世界や日本の経済を担う大きな仕事にチャレンジできることを、お伝えしていきたいと思います。

## 学生へのメッセージ

できるだけ速くに、できるだけ長く、『一人で』出かけてください。いつもそばにいる誰かと出かけると、たとえ海外であってもそこはずっと『小さな日本』ですが、一人で行くとそこはまさに異国、考え方も生き方も人それぞれだと、はっきり見えてきます。こうあるべき、こうしなければならない、私たちはいつも“常識”にとらわれていますが、それは自身の思い込みに過ぎないと気づかれます。『若い時は、時間と体力はあるが金がない、働き始めると体力と金はあるが時間がない、年をとると金と時間はあるが体力がない、全部そろってるのは今しかない』これは転職前の無職期間、海外へ一人旅に出る前に父が言ってくれた言葉です。COVID-19が収束したら、すぐにパスポートをもって、留学や一人旅に出かけてください。

担当：基幹研究院自然科学系教授 赤松 利恵



## わたしのオフタイム

年に1度は海外へ、1週間程度ですが一人旅に出かけています。旅に出る前の準備が肝心で、訪問する国の歴史や風土、英雄について調べて出かけてます。狭くなった視野を開放する、良い機会となっています。